

天声人語

宮沢賢治が菜食主義者になつたのは、動物の命をだいじにする気持ちからだ。童話「ビジテリアン大祭」のなかで、その精神を「同情派」として説明している。「よくよく喰べられる方になつて考えて見ると、とてもかあいそで……」▼賢治によると菜食主義の精神はもう一つ、「予防派」というのがある。病気予防になると考へ、動物性たんぱく質を取らない人たちで、いわゆる健康志向か。さて現代では、三つ目の精神を付け加えるべきかもしれない。「環境派」である▼植物で作る「代替肉」なるものが、米国で広がっているという。5月にはハンバーガー用の代替肉パテを作るビヨンドミート社が上場し、高い株価をつけた。人気の理由にあげられるのが環境問題、なかでも地球温暖化だ▼米有力紙によると、人間が生み出す温室効果ガスの14%が家畜に関係しているとの分析がある。牧畜のため森が切り開かれ、牛がげっぷを出すことなどが影響している。国民食ともいえるハンバーガーに焦点があたるゆえんである▼トランプ大統領は先日、パリ協定から離脱すると国連に通告した。しかし米国の最近の世論調査では離脱決定への反対が約6割を占めており、温暖化への強い懸念をうかがわせる。代替肉への注目は、そんな世論を反映しているのだろう▼先日の本紙夕刊（東京本社版）によると、日本でも代替肉の新商品が出始めている。生命倫理から地球環境まで、色々と考えながら味わつてみるのもいいかもしない。